

提 案 書

平成26年 9月29日

(あて先)

埼玉県教育局教育総務部教育政策課長様

所 属：埼玉県立宮代特別支援学校

職 氏 名：教諭・海老沢ひとみ

連絡先の電話番号：0480-35-2432

埼玉県教育委員会教職員提案制度募集要項に基づき、次のとおり提案します。

**タイトル：意見を出し合い、効率的にまとめる話し合いの工夫  
～教員間の連携や共通理解を図るために～**

**実践事例の要旨：**

肢体不自由特別支援学校では複数教員がチームとなって指導することが多く、授業等の指導場面にあたってはチームの教員全員が指導内容を理解することが重要となる。そのため、共通理解を深めるための話し合いを設定しているが、話し合いを進める上で「ベテラン教員には意見を言いにくい」「肢体不自由教育の経験が浅い教員は発言しにくい」「出された意見をまとめるのにくい」という課題が挙げられた。

そこで、チームの教員全員が意見を出し易く、話し合った結果を共有し易い話し合いにするために、カード整理法を用いた話し合いを実践した。

その結果、「しっかりと話し合うことで、日々の指導をチーム全体で共通理解でき統一したかわりができた」「経験の長短に関わらず、全ての意見を同じレベルで扱うことができ上下関係がなくなる」等の結果が得られた。

このことから、特別支援学校におけるチームの話し合いに、カード整理法を用いることは、教員間の連携や共通理解を深めることに有効ではないかと考え、提案するものである。

**実践に至った背景：**

特別支援学校における指導の特徴は、チームで指導することである。特に肢体不自由特別支援学校においては全校児童生徒の約8割が少人数で編成される重度重複学級に在籍しており、その結果一人の児童生徒にかかわる教員の人数が多くなっている。

また、チームとなる教員集団は、年齢や経験年数等が異なる教員が混在している。この教員集団の特性を生かすことができれば、多角的な見方で児童生徒を捉え、教員各自の持ち味や得意とする専門的な力を発揮することができ素晴らしい実践を行うことができる。

特に、授業を行う際にはチーム全員が指導内容・方法を理解している必要があり、教員の連携と共通理解が不可欠である。そのため、何よりも話し合いを行うことが不可欠の条件となる。

本校では平成19年度に全教員を対象として『集団討議及び指導上の困難点』に関する調査を実施した。その結果、「児童生徒の実態や目標の捉え方が曖昧で教員によって指導が異なってしまう」「共通理解が不十分で教員間の連携がうまくいかない」という課題が挙げられた。特に共通理解を図る場となる学級担任会議における話し合いでは、「自由に発言できない」「ベテラン教員には意見を言いにくい」「肢体不自由教育の経験が浅いため発言しにくい」という雰囲気があり、話し合いがうまく進んでいないという現状が把握できた。

また、活発に話し合いが進んだ場合でも「話し合いの場では確認できたことが指導に生かされていない」と感じていたり、「出された意見がまとめにくくうまく共通理解を図れていない」という課題も挙げられた。

以上のことから「教員全員が意見を出し合う」「出された意見をまとめる」「話し合った結果を共有する」ことができれば、教員間の連携や共通理解を深めることができ、充実した指導が展開されるのではないかと考え、児童生徒の指導計画策定時にカード整理法を活用した話し合いを導入することとした。

### 実践のねらい及び内容：

<ねらい>

- ・教員全員が意見を出し合う  
(若手教員が意見を出しやすい・多角的な考え方ができる)
- ・出された意見をまとめる  
(他者の意見に気づき、受け入れることができる)
- ・話し合った結果を共有する  
(話し合った軌跡が見える形で残り全員で確認できる)

<内容>

#### 「カード整理法を用いた児童生徒の実態把握」

- ①児童生徒の日頃の様子から「あれ？おや？」と感じることをカード（付箋紙）2～3枚に書く。
- ②一人がカードを読み上げながら模造紙に貼る。
- ③似たようなことを書いたカードを持っている教員がカードを読みながら先に出されたカードのそばにカードを貼っていく。
- ④似たようなカードを出し切ったら、新たに違う内容のカードを一枚だし③④をカードが無くなるまで繰り返す。
- ⑤カードのまとめり毎にタイトルをつけ、背景要因などを考慮しながら児童生徒の実態や課題を整理していく。

※話し合いが終わった時には話し合った軌跡が模造紙上に残る。＜資料1参照＞

### 実践の成果や効果：

<実践した教員の感想より>

- ・経験の浅い教員には、わかりやすかった。
- ・実態把握に自信がなく不安であった時に、他の先生の意見を聞くことができとても参考になる。
- ・経験の長短に関わらず、全ての意見を同じレベルで扱うことができ上下関係がなくなる。
- ・全員がカードを書くので、必ず全員に発言することができる。
- ・一人で考えるよりもみんなで考えることで一人では気づかないことができた。
- ・評価を一人で考えていると見方が狭くなるが、みんなで考えることで充実した

<p>評価を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多角的に児童生徒を見ることができた。</li> <li>・担任全員で、クラスの生徒を見ている感じがした。</li> <li>・何でも意見を出し合い、受け止め合える時はとても有効な話し合いになる。</li> <li>・しっかりと話し合うことで、日々の指導をチーム全体で共通理解でき統一したかわりかかわりができた。</li> <li>・他の先生の意見を聞き「こういう見方もあるんだ」とわかり、生徒をみる目が養えると感じた。</li> </ul>	
<p><b>実践期間：平成20年4月～現在</b></p>	
<p><b>実践事例のセールスポイント：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でもどこでもすぐに実践できる。</li> <li>・参加者全員の意見を短時間で引き出し、平等に扱うことができる。</li> <li>・カードを出しながら意見を述べるため、全員に発言の機会がある。</li> <li>・多くの意見から、様々なアイデアが見いだせる。</li> <li>・他の教員の児童生徒の捉え方や指導観に触れたり、他の人の意見を聞いて「こんな考え方もあったんだ」と新たな発見をすることができたりする。</li> <li>・話し合った経緯が見える形で残る。</li> <li>・全員が同じ物を見ながら話し合いが進むので、思い違いが減り共通理解を図りやすい。</li> </ul>	
<p><b>&lt;実践事例を他校でも活用できる方策等&gt;</b></p> <p><b>* 他校で導入する際のポイント：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを行う人数は3～7人が最適である。</li> <li>・カードを記入する際は、一枚のカードにひとつのことを具体的かつシンプルに記入する。（1～2行程度に収める）</li> <li>・専門用語は避けて、わかりやすい表現で記入する。</li> <li>・付箋紙は2.5cm×7.5cmのサイズが使いやすい。</li> <li>・糊の位置は左側にくるように使うと、貼り付ける際に扱いやすい</li> </ul>	
<p><b>* 失敗しないための秘訣：</b></p> <p>話し合う前に、以下の点を司会が参加者全員に伝える。</p> <p>&lt;話し合いのルール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を聞きながら、うなづいたり共感の言葉（そうそう、同じ、なるほど等）を言ったりして、意見を出しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>・人の話は最後まで聞き、否定や批判はしない。</li> </ul>	
<p><b>* こうすれば自校よりも高い効果が得られるという方策：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの場には、付箋紙やホワイトボードを必ず用意し話し合いの経過を見える形（視覚化）にする</li> </ul>	
<p><b>* その他：</b></p>	
<p><b>公的支援（予算措置や教職員の加配等）への要望</b></p> <p>なし</p>	<p><b>実践元の所属長確認</b></p> <p><b>動画や写真の使用許可</b> <input checked="" type="checkbox"/></p>

※ A4判縦の用紙に横書き3枚以内で提出してください。

※ 資料（印刷物、動画や写真のDVD）を添付していただいても構いません。

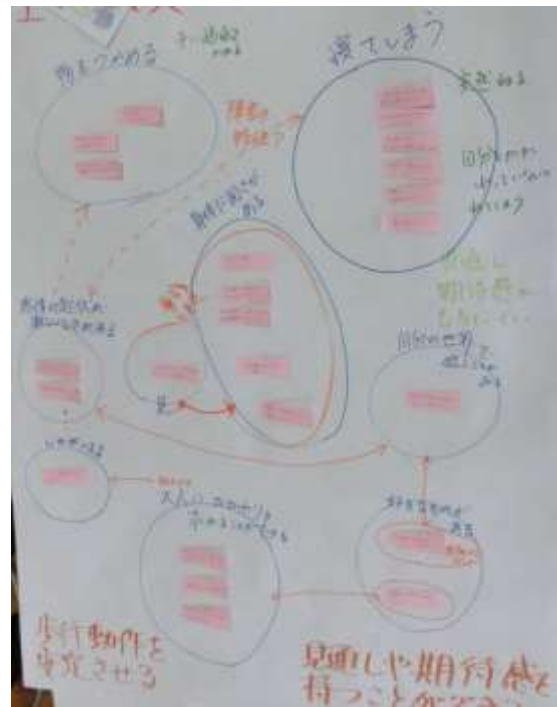
◎ 印刷物による資料は規定枚数には含みません。

◎ 資料提出に当たっては著作権や肖像権等に御注意ください。

※ 実践を行った学校名等が公開される可能性があります。予め、実践元の所属長に提案内容について御確認ください。

## 実践例：「課題関連図作成」

本校では、自立活動研修の一環として、児童生徒の「課題関連図（実態把握）」の作成に取り組んでいる。



## 「課題関連図作成」の様子



カード整理法を用いることで、チーム全員の意見をまとめることができる

実態や課題の関連性などの意見交換を行うことで、共通理解を深められる。

